

| | | | | | |
|--|-------------------|------|----|------|--------------|
| ブドウ品種「翠峰」の果点発生軽減方法 | | | | | |
| [要約]ブドウ品種「翠峰」の果点の発生は、トンネルが連続し果房に雨水がかかりにくい構造の被覆栽培を行い、梅雨が明けるまで被覆しておくことで軽減できる。また、強樹勢とならないよう樹冠を拡大することで軽減できる。 | | | | | |
| 担当部署 | 園芸研究所・果樹部・果樹品種研究室 | | | 連絡先 | 092-922-4946 |
| 対象作目 | 果樹 | 専門項目 | 栽培 | 成果分類 | 技術改良 |

[背景・ねらい]

ブドウ品種「翠峰」はジベレリン処理を行うことで極大粒の無核果実が生産できる付加価値の高い品種である。しかし、果皮の色が黄緑～黄白色であるため果粒表面の褐色斑点（果点）が目立ちやすく、果実の外観を損ねる場合がある。今後、「翠峰」の生産が増加し市場出荷量が増えたと問題となり、販売に支障がでるものと考えられ、「翠峰」の果点の発生を軽減させる技術を早急に確立する。（要望機関名：生産流通課（H11））

[成果の内容・特徴]

1. 「翠峰」の果点の数および総果点面積は、収穫または梅雨明けまで被覆すると梅雨明け前に被覆を除去する場合より少ない（表1）。
2. 間口 1.5 mでトンネルが連続している簡易被覆栽培や大型トンネルで栽培を行うことにより果点発生を軽減できるが、トンネルの間が広くあいているヒロハントンネルでは果点が多発する（表2）。
3. アクリルハウスでは果点数、果点面積はヒロハントンネル栽培樹とかわらないが、果点の色が薄いため外観の評価はヒロハントンネル栽培樹より良い（表2）。
4. 樹勢が中の樹でも外観は全く問題ないが、樹勢の弱い樹では果点の発生が非常に少なくなり外観はさらに向上する（表3）。
5. ジベレリン処理条件（濃度、処理時期）と果点発生との間および果点発生程度と食味の間にも関係は認められない（データ略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「翠峰」の栽培技術資料として活用できる。
2. 「翠峰」は樹勢が弱くなりすぎると有核果が混入するようになるので樹冠拡大は樹勢に十分注意しながら行う。

[具体的データ]

表1 被覆除去時期の違いが果点発生に及ぼす影響 (平成11年)

| 被覆除去時期 | 果粒1粒当たり | | 果点1個の面積 mm ² |
|--------------|----------|--------------------------|----------------------------|
| | 果点数 個 | 総果点面積 mm ² | |
| 6月29日 | 10.5 | 1.74 | 0.17 |
| 梅雨明け後(7月13日) | 7.6 | 1.15 | 0.15 |
| 収穫後 | 8.0 | 1.39 | 0.17 |

- 注) 1. 果粒一粒当たりの果点面積は果点数×果点1個の面積により算出した。
 2. 果点1個の面積は、果点の長径と短径を測定しその平均値から果点の半径を求め、果点の形を円と仮定して面積を求めた。
 3. 果実は9月4日に収穫した。
 4. 6月29日から7月13日までの降水量は134mm。7月13日から9月4日までの降水量は471mm。

表2 「翠峰」の被覆方法と果点発生程度 (平成12年)

| 供試樹 | 間口と被覆方法 | 満開日 | 樹勢 | 外観の評価 | 果粒1粒当たり | | 果点1個の面積 mm ² |
|-----|--------------|------|----|-------|----------|--------------------------|----------------------------|
| | | | | | 果点数 個 | 総果点面積 mm ² | |
| A樹 | 1.0m ヒロハントネル | 6/2 | 強 | 3.00 | 13.40 | 2.54 | 0.19 |
| B樹 | 4.5m 大型トンネル | 5/31 | 強 | 2.55 | 7.70 | 1.51 | 0.20 |
| C樹 | 9.0m アクリルハウス | 5/30 | 強 | 2.60 | 12.00 | 2.60 | 0.18 |
| D樹 | 1.5m 簡易被覆 | 5/27 | 中 | 2.30 | 6.38 | 2.16 | 0.17 |

- 注) 1. 外観の評価は次の4段階で評価した。1:果点があることに気づかない 2:果点があることがわかるが目立たない 3:果点のはっきりわかる 4:果点が目立ち汚い。1~3が商品として問題のない外観である。
 2. ヒロハントネルはトンネル間が約50cm開いた構造で、果房に雨水がかかりやすい構造である。
 3. 果実は9月4日に収穫した。
 4. 被覆は7月4日に除去した。

表3 「翠峰」の樹勢と果点発生程度 (平成12年)

| 供試樹 | 間口と被覆方法 | 満開日 | 樹勢 | 外観の評価 | 果粒1粒当たり | | 果点1個の面積 mm ² |
|-----|-----------|------|----|-------|----------|--------------------------|----------------------------|
| | | | | | 果点数 個 | 総果点面積 mm ² | |
| D樹 | 1.5m 簡易被覆 | 5/27 | 中 | 2.30 | 6.38 | 2.16 | 0.17 |
| E樹 | 1.5m 簡易被覆 | 5/28 | 弱 | 1.17 | 1.80 | 0.33 | 0.13 |

- 注) 1. 表2に同じ
 2. 供試樹は同一ほ場内にあり、9月4日に収穫した。
 3. 被覆は7月4日に除去した。

[その他]

研究課題名: ブドウ「翠峰」の果点発生軽減技術の確立

予算区分: 経常

研究期間: 平成12年度(平成11~12年)

研究担当者: 平川信之、白石美樹夫、藤島宏之